

【学生によるESD活動支援】

奈良市立平城小学校 野外活動 支援報告書

教職大学院2回生 谷内 裕也

1. 実施日 平成30年6月13日(水)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷内裕也、谷垣徹、伊藤拓海、下原舞、櫛乃里花、
仲村幸奈、奥平茜、三木菜々子、辰上亜弥子(奈良教育大学ユネスコクラブ)
新田結子(奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立平城小学校 第5学年児童ならびに引率教員6名他

4. 活動支援内容

平成30年6月13日(水)に、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立平城小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生9名他がその支援にあたった。オリエンテーリング、野外炊飯、キャンプファイヤーの活動支援を行った。当日は、曇天ではあったが次第に天候に恵まれ、すべてのプログラムは予定通り行うことができた。

今回の野外活動支援を通して学んだことを3つ挙げたい。一つ目に「教師という仕事」、二つ目に「学年経営」、三つ目に「本気から得られるもの」についてである。

一つ目の「教員という仕事」についてであるが、学生にとって教員という仕事はあこがれである。今回のように教員の立場で子どもと関わるができるのは、貴重な機会である。野外活動を通して子どもたちに何を学ばせ、何を感じさせたいのかを考えることが教員は重要である。考えるからこそ想いや工夫に反映されると学んだ。

二つ目は「学年経営」についてである。学年という単位で子どもたちを育てていくという考え方を学ぶことができた。そうした中で、学年の方向性を一致させることや子どもたちの目指す目標等を共通認識させることは当然である。子どもにもわかる目標を掲げ、常に意識ができるものにすることは教員の団結力も増す。オリエンテーリングでは、広いフィールドで子どもたちに班行動をさせる。安全という担保を確保するためにも、教員の分掌は事細かくなっている。教員の連携によって一つひとつの行程がなされていくのを教員の立場で見ることができたのは私にとって大きな学びとなった。

三つ目の「本気から得られるもの」である。キャンプファイヤーが始まる前から、教員と子どもが本気になって同じ想いを持っていた。私はギターとして携わったが、子どもたちの表情や声の本気を物語っていた。これまでの教員の指導もあるが、なにより教員の想いが子どもたちに伝わった時間だったと感じている。教員ももちろんだが、子どもたちが主役となってキャンプファイヤーを創っていた。

今回の野外活動支援では、教員の想いととも本気という気質を学んだ。私も子どもを本気にさせることができるような資質や技量を身につけていきたい。だが、資質や技量のみならず、野外活動を通して子どもに何を学ばせ、何を感じさせたいのかを考えることも大切にしたい。そのためにも、これからも野外活動支援に積極的に参加して、様々な教員の想いや工夫を学んでいきたい。



キャンプファイヤーに向けて
気持ちを高める様子